

太陽刷子株式会社

2021年度 環境経営レポート

(対象期間：2021年11月～2022年10月)



発行日： 2023年2月5日
改定日： 2023年11月28日

I. ごあいさつ

太陽刷子株式会社は、歯ブラシおよび歯間ブラシを製造する企業です。昭和21年の設立以来、多くのお客様からご支援を賜りながら堅実な経営を営み、お陰様で今日を迎えるに至りました。

この度当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として、新たな一歩を踏み出しました。

これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

環 境 経 営 方 針

<環境経営理念>

太陽刷子株式会社は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題と考えており、本業である歯ブラシおよび歯間ブラシの生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

活動内容は、環境経営における課題やチャンスを定期的に見直すことで明確にし、効率よく、無駄なく、タイムリーに従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

1. 環境経営の継続的改善を誓約します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
4. 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制につとめ、リサイクル率の向上に努めます。
5. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
6. 環境配慮製品の製造を推進します。
7. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2021年11月1日

代表取締役社長 小倉 輝紀

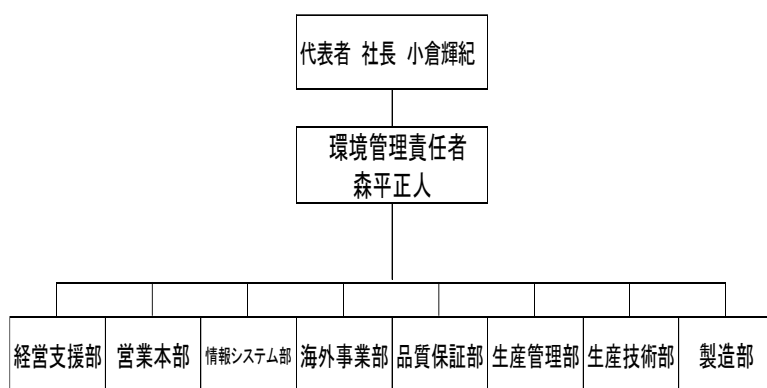
Ⅱ. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
太陽刷子株式会社
代表取締役社長 小倉 輝紀
- (2) 所在地
本 社 〒658-0042 兵庫県神戸市東灘区住吉浜町19番18号
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先
責任者 経営支援部 森平 正人 TEL:078-854-6056
E-Mail : masato_morihira@taiyo-brush. co. jp
- (4) 事業内容
歯ブラシ、歯間ブラシの製造
主要製品：歯ブラシ、歯間ブラシ
- (5) 事業の規模
製品出荷額 15.1億円（2021年度実績）
主要製品生産量 47,782,000本（2021年度実績）
- | | |
|-----------|------|
| | 本社 |
| 従業員 (人) | 94 |
| 延べ床面積 (㎡) | 5031 |
| 敷地面積 (㎡) | 4768 |
- (6) 事業年度 1 1 月～翌年 1 0 月

Ⅲ. 認証・登録の対象範囲

登録組織名 : 太陽刷子株式会社
対象事業所 : 本社
活動 : 歯ブラシおよび歯間ブラシの製造

Ⅳ. 環境経営実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・効果的で必要十分な実施体制の構築 ・環境管理責任者の任命及び各自の役割・責任・権限を定め全従業員へ周知 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局 (環境管理責任者と兼務可)	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 ・環境教育訓練計画の作成と実施の管理 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所への備付けと地域事務局への送付)
部門長(部長、課長)	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

V. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2020年度 基準年度	2021年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	231,311	244,857	
電力	kWh	663,072	704,282	
ガソリン	L	566	712	
軽油	L	3,307	3,091	
灯油	L	0	0	
廃棄物排出量	kg	-	14,126	
一般廃棄物	kg	実績不明	753	
産業廃棄物	kg	13,920.00	13,373	
水使用量	m ³	1,197	1,175	

注1) 化学物質の使用はありません。

VI. 環境目標及びその実績

(1) 中期目標

		2020年度 基準年度	2021年度	2022年度	2023年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	231,311	228,998	226,685	224,372
電力使用量 削減	kWh 対基準	663,072	656,441	649,811	643,180
ガソリン 使用量削減	L 対基準	566	560	555	549
軽油 使用量削減	L 対基準	3,307	3,274	3,241	3,208
II. 廃棄物排出量					
一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明	実態調査	適正管理	適正管理
産業廃棄物 削減	kg 対基準	13,920	13,781	13,642	13,502
III. 水使用量 削減	m ³ 対基準	1,197	1,185	1,173	1,161
IV. 環境に適した 製品の販売	品目 対基準	0	1	2	3
			+1	+2	+3

注1) 都市ガスは、微量のため二酸化炭素排出量に含めない。

注2) 電力の二酸化炭素排出係数(調整後)は、2018年度関西電力実績値の
0.334kg-CO₂/kWhを使用。

(2) 対象期間の実績

年 度 項 目		基準 2020年度 (11月～10月)	取組期間における実績 (2021年11月～2022年10月)			
			目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	231,311	228,998	244,857	94%	×
電力 使用量削減	kWh 対基準	663,072	656,441	704,282	93%	×
ガソリン 使用量削減	L 対基準	566	560	712	79%	×
軽油 使用量削減	L 対基準	3,307	3,274	3,091	106%	○
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明	-	753	-	-
産業廃棄物 削減	kg 対基準	13,920.00	13,780.80	13,372.50	103%	○
III. 水使用量 削減	m ³ 対基準	1,197.0	1,185.0	1,175.0	101%	○
IV. 環境に適した 製品の販売	品目 対基準	0	1	0	0%	×
			+1	0		

注1) 評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（95%～100%未満）、×：未達成（95%未満）

注2) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度(%)＝目標÷実績×100、増加を目指す場合は、
達成度(%)＝実績÷目標×100

(3) 原単位(売上高)削減率

年度	売上高 (円)	二酸化炭素排出量	原単位排出量 (売上高1億円当たり)	原単位 削減率
2020年度	1,354,617,328	231,311 kg-CO ₂	17,076 kg-CO ₂	-
2021年度	1,512,679,202	244,857 kg-CO ₂	16,187 kg-CO ₂	5.2%

VII. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の環境経営計画（取組内容）
二酸化炭素排出量の削減 （未達成）		
・下記の通り。	×	昨年に比べ、営業日数が4日増加したことが影響した。
電力使用量の削減 （未達成）		
・空調温度の適正化（冷房24℃暖房20℃）	△	空調設備老朽化により風量が弱くなっており、適正化させるに至らなかった。また、稼働日が4日多いことも未達成の原因。
・照明管理（未使用箇所の消灯）	○	不要照明の消灯を徹底する。
・省エネ設備の導入	○	屋根遮熱塗装工事実施完了（2022年8月12日）、室温が2～3℃低下し空調効率がUPした。
		今後も一層積極的な取り組みを実施する。
ガソリン使用量の削減 （未達成）		
・不要なアイドリングストップ	○	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・効率的なルートでの営業	△	無駄なルートでの営業はなかった。ただし、営業件数は増加。
・適正な車両の整備	○	定期的に車両点検を実施している。
・社用車の削減	◎	社用車1台の削減を行った。
		行動規制緩和により行動量が増加したことが要因
軽油使用量の削減 （目標達成）		
・不要なアイドリングストップ	○	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・運行本数削減	◎	送迎バスの運行本数を1本削減した。
・適正な車両の整備	○	定期的に車両点検を実施している。
		今後も一層積極的な取り組みを実施する。
一般廃棄物の削減 （目標達成）		
・一般廃棄物の廃棄量実績など調査し、目標を定める	○	実態調査を開始している。
・分別によるリサイクルの推進	△	更なるリサイクル推進が必要。
・ミスコピーの防止	○	留め置き印刷機能の複合機を使用。
・裏紙の使用	○	社内使用書類は裏紙使用を引き続き徹底。
・廃封筒の再利用	△	社内使用封筒は廃封筒使用を引き続き徹底。
・来年度以降の目標設定	○	正確な排出量を把握しながら、削減に努める。
産業廃棄物の削減 （目標達成）		
・分別によるリサイクルの推進	○	更なるリサイクル推進が必要。
・素材ボックスの設置	△	一部分別ボックス設置が出来ているが、更なる推進が必要
・保管場所の掲示板を設置	○	設置済みである。
・来年度以降の目標設定	○	今後も一層積極的な取り組みを実施する。
水使用量の削減 （目標達成）		
・節水の周知徹底	○	節水の呼びかけにより達成できたが、より徹底をはかる。
・節水バルブの設置	◎	節水バルブを設置し、トイレの排水量を減らすことができた。
・清掃時・手洗い時の節水	○	より多くの工夫ができるようにする。
環境に適した製品の販売 （未達成）		
・市場・顧客情報の調査	△	植物由来の原料を混ぜ合わせたものや、炭酸カルシウムを主原料とした製品が出てきている。
・環境に適した資材の調査および仕入ルートの確保	△	取引先や研究機関との協議等を経て、試作を6件行ったが商品化には至らず。（強度が担保できないことが最大の要因）
		今後も左記取組を継続する。

VIII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	・委託基準：一般収集業者の許可の確認	遵守
	・委託基準：産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、 書面契約（契約書5年保存）	遵守
	・保管基準 掲示板：60cm×60cm以上表示 飛散・浸透防止・囲い設置 衛生管理	遵守
	・マニフェスト交付、管理（回付日記入等） ・B2、D票90日（60日）、E票180日（180日）以内に送付されない場合は30日以内の知事への報告（()内は特管物の場合） ・A、B2、D、E票の保管（5年間）	遵守
	・処分状況の実地確認（努力義務）	遵守
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵守
平成29年10月1日改正施行	・保管-蛍光灯専用保管スペース（仕切り） ・産業廃棄物保管場所・掲示板-種類に水銀使用製品（蛍光灯等）を追記。 ・マニフェスト-種類「水銀使用製品（蛍光灯等）」&数量明記 ・処理委託-水銀使用製品産業廃棄物の収運・処分の許可業者へ委託。 ・委託契約書-「水銀使用製品産業廃棄物」を契約書に委託種類として明記。	遵守
フロン排出抑制法	・フロン類の登録回収業者による適切な回収 ・費用負担	遵守
	・フロン類改修時の委託確認書交付と取引証明書の保存（3年間） ・充てん量、回収量の記録保存（点検整備記録簿）	遵守
	・取引証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告（解体時90日）	遵守
	・フロン類使用の定期点検・記録、同保存、漏洩防止等 ・適切場所設置 ・未修理充填禁止	遵守
消防法	・消火設備の定期点検（防火対象物）	遵守
	・事故時の措置と届出（通報）	遵守
浄化槽法	・増加層設置届及び使用開始報告 ・保守点検及び清掃、記録保存（3年保存）	遵守
	・水質基準順守 ・定期水質検査	遵守
道路運送車両法	・日常点検整備	遵守
	・定期点検・整備	遵守
	・点検／整備記録、保存	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局より過去5年間、違反等の指摘はありません。

IX. 代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は、良い地球環境や自然環境を次世代に残すための取り組みの大切さを社員全員が認識し、エコアクション21に取り組んで来ました。

3Rなどの無駄をなくす取り組みは、社内活動として定着して来ているので、今後は更なる啓発活動を行い、全社員への徹底を図って行く必要があります。

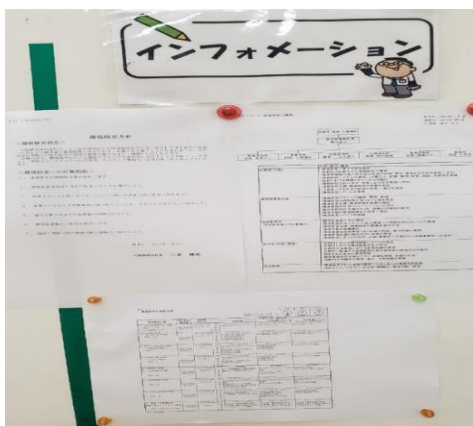
2021年度は前年に比べ売上、電力やガソリン使用量が増加した結果、Co2排出量は増加してしまいましたが、原単位（売上高）削減率5.2%となり、且つ様々な取り組みの結果、軽油や水、産業廃棄物は削減することができました。

全体的には、具体的な目標を設定しPDCAサイクルを回す仕組みを導入できたことは、非常に評価出来ると考えます。

項目	見直し要否	見直し内容
環境経営方針	否	-
環境経営目標	否	-
環境経営計画	否	-
実施体制	否	-
その他	否	-

2023年2月5日
代表取締役社長 小倉 輝紀

X. 環境活動の紹介例（オプション）



<エコアクション掲示板>



<消火訓練>



<ごみの減量>



<裏紙の再利用>



<工場照明のLED化>